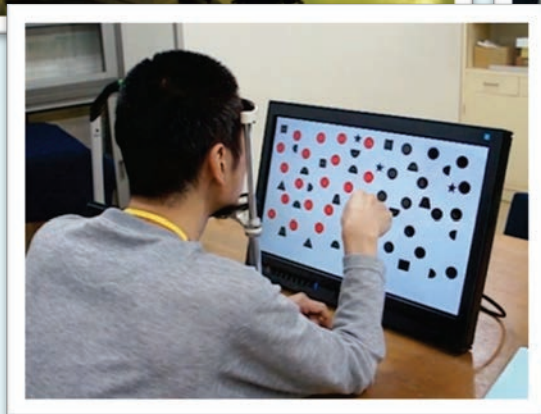
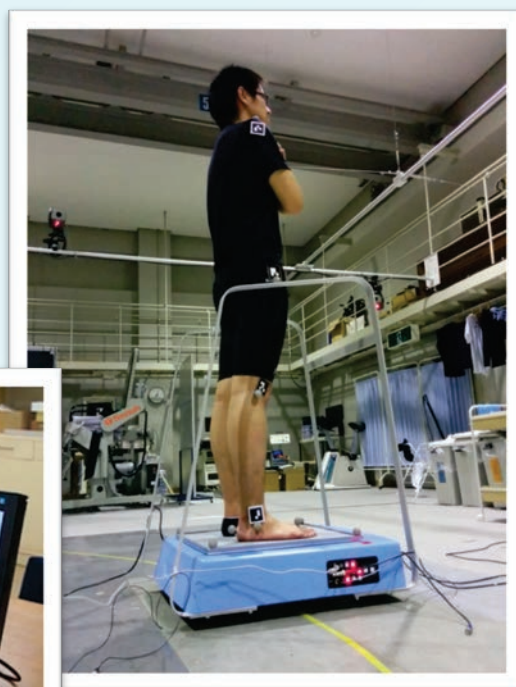
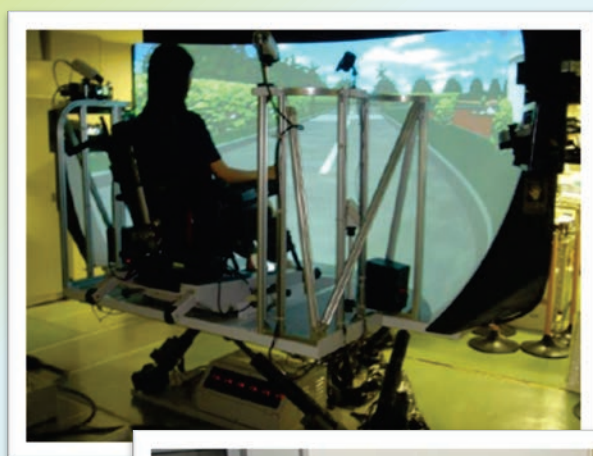


H.C.R. 2014

国立障害者リハビリテーションセンター 研究所



超高齢社会における QOL向上のための研究開発



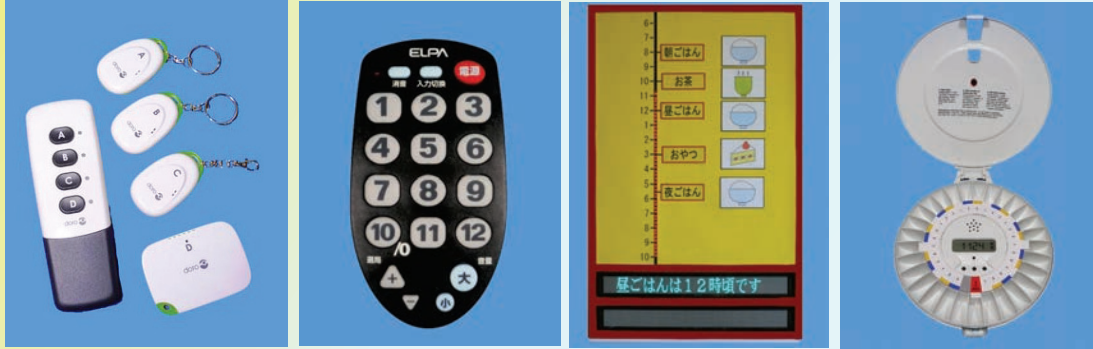
障害の質的变化・ニーズの多様化など、現代社会の要請に応じて障害者の社会復帰を促進することを目指し、医学・工学・社会学・心理学など多彩な視点からのリハビリテーション技術の学際的研究を進めます

- 障害の評価に基づく訓練方法、機能障害の補償に関する研究
- 義肢や補装具、福祉用具などの性能・耐久性、有用性の評価法の研究
- あたらしい視点と開拓性を持った福祉機器の開発
- 障害者と共に生活しつつ進める実践的研究

「開かれた研究所」としての実証的・学際的研究を志向していきます

認知症患者の生活を支援する各種福祉用具

認知症では、脳神経細胞の大幅な減少等により、記憶障害（例：夕食を食べたことを忘れる）や、見当識障害（例：時間の流れや自分のいる場所が分からなくなる）などが生じます。認知症の軽度から中度の段階では、こうした脳の情報処理の障害を福祉用具の利用によって補うことで、自分の力を活かして生活することができます。



1. 探し物発見器：物につけた受信機からのブザーにより置き場所を知らせる機器
2. テレビリモコンカバー：操作に迷わないよう、ボタンを簡素化したリモコンカバー
3. スケジュール把握支援機器：ボード、LED掲示によって予定の確認を促すことができる装置
4. アラーム付き薬入れ：服薬時間をアラーム音で伝え、飲む分だけ薬が取り出せる機器

高次脳機能障害者のための 生活支援・リハビリツール

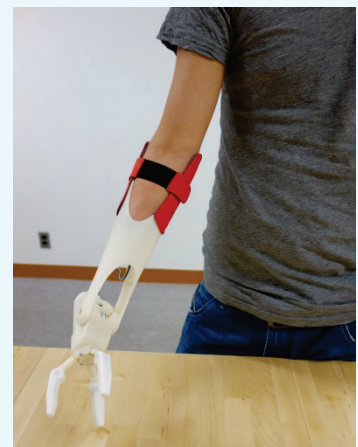
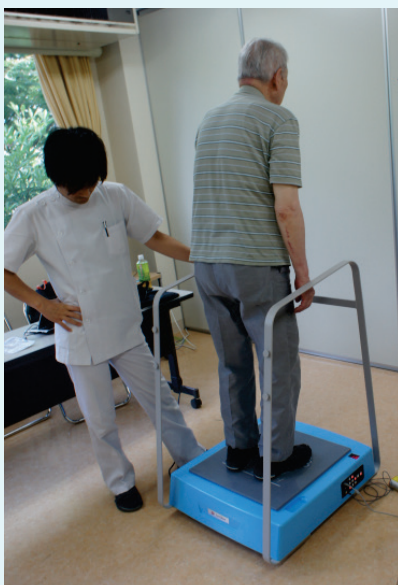
脳外傷、脳血管障害、脳炎、低酸素脳症、脳腫瘍などが原因で、記憶や注意、遂行機能などに障害が発生する場合があります。そのような高次脳機能障害のある方々の日常生活や就労、職業訓練を支援することを目的とした支援機器の研究開発を行いました。具体的には手順支援機能、スケジュール管理機能、アラーム機能の3つの機能を研究開発しています。



身体機能の調和を図る 新しいリハビリツールの開発

立位姿勢調節のためのリハビリ装置
ヒト立位姿勢調節のメカニズムに関する知見をベースとして、加齢や障害による姿勢機能低下を改善するための新しいリハビリ装置を開発しています。

新しいコンセプトの義手の開発
義手の新しい選択肢を提示すべくシンプルな構造と安価なセンサによる単純な制御、低コストながら高性能を持つ電動義手を開発しています。



国リハコレクション ～ファッションショーと展示 — 気楽におしゃれ、始めませんか —

身体が不自由になった方々の衣服に関する課題があることを知って頂くため、また、おしゃれを楽しめる環境促進の一助として2011年から国リハコレクションを開催しています。

ファッションショーの衣服には、ご協力頂いたモデルさん等の気持ちとおしゃれに重点をおきながら、衣服の着脱のしやすさ、衣生活や普段の行動での課題を解決する工夫がされています。

出展・展示として、企業、病院、公的研究機関、教育機関、ボランティアにご協力頂き、製品や試作品、取組などをご紹介頂きました（おしゃれな転倒骨折軽減用下着や「みんなが着たい！」共用品着物など）。



写真：国リハコレクション2012より

ファッションショーと衣料の作成は、文化服装学院にご協力頂きました

国リハコレクション2014は、10月18日(土)に開催することとなりました。

詳細は右記URLに掲載してあります。 <http://www.rehab.go.jp/ri/event/fashion/top.html>

障害者ライフモデルルーム

支援機器などの体験を含め、様々な情報発信や情報交流などができる場の1つとして、「障害者ライフモデルルーム」を整備し、2011年から活用を開始しています。

トイレやバスのフィッティングに活用されている他、支援機器のデモや体験会などのイベントでも利用されています。主な設備は以下の3点です。

- ・多目的な利用を想定したスペース(約10m×11m)
- ・手すりやスイッチなどの配置による違いを体験できるトイレおよびバスのフィッティングルーム
- ・温度と湿度が調整できる部屋(温度は-10℃から42℃)



建物の外観



トイレフィッティングルーム

国立リハビリテーション研究所の紹介



部門

- ・脳機能系障害研究部
- ・運動機能系障害研究部
- ・感覚機能系障害研究部
- ・福祉機器開発部
- ・障害工学研究部
- ・障害福祉研究部
- ・義肢装具技術研究部

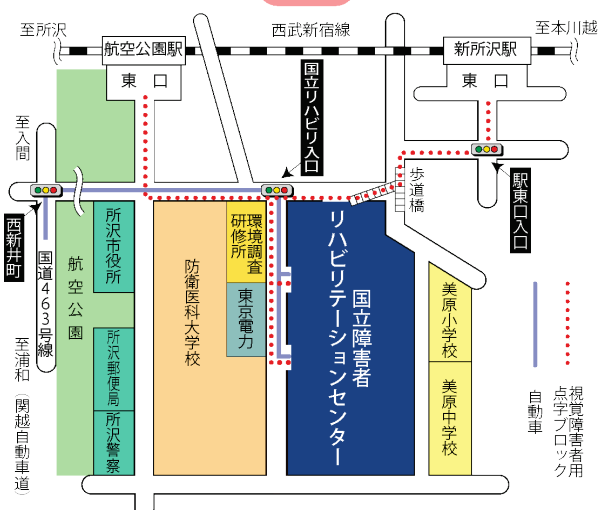
当研究所は、日本におけるリハビリテーション技術の研究開発の中核として昭和59年に設立されました。医学、工学、社会学、心理学に焦点を当てた、学際的かつ任務遂行型の機関です。研究所の活動は、国立障害者リハビリテーションセンターのリハビリ業務に密接に関わっており、その成果はセンター内の他の組織によってテスト、評価された上で利用されています。現在、障害者の多様な要求に答えるために、特に評価方法、支援技術、新規な支援機器の開発に力点を置いています。さらに、これらの目的に関わる基礎研究も行っています。

臨床評価方法、支援技術、支援機器開発、関連する基礎研究

沿革

- 昭和54年 国立身体障害者リハビリテーションセンター設立
- 昭和59年 研究所整備開始(3研究部6研究室・補装具製作部)
- 昭和60年 障害工学研究部設置(4研究部8研究室・補装具製作部)
- 昭和61年 障害福祉研究部設置、研究所整備計画完了(5研究部10研究室・補装具製作部)
- 平成10年 感覚認知障害研究室設置(5研究部13研究室・補装具製作部)
- 平成20年 国立障害者リハビリテーションセンターに名称変更
- 平成20年 発達障害情報センター設置(5研究部13研究室・補装具製作部・1センター)
- 平成22年 補装具製作部を義肢装具技術研究部に名称変更(6研究部13研究室・1センター)
- 平成22年 脳機能系障害研究部設置(7研究部16研究室・1センター)
- 平成23年 発達障害情報センターを発達障害情報・支援センターに名称変更
- 平成23年 高次脳機能障害情報・支援センター設置(7研究部16研究室・2センター)
- 平成24年 分子病態研究室設置(7研究部17研究室・2センター)
- 平成25年 高次脳機能障害情報・支援センター、発達障害情報・支援センターを企画・情報部へ組織変更(7研究部17研究室)
- 平成25年 福祉機器臨床評価研究室設置(7研究部18研究室)

案内図



国立障害者リハビリテーションセンター研究所

Research Institute of National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities



〒359-8555 埼玉県所沢市並木4丁目1番地
TEL 04-2995-3100(代) FAX 04-2995-3132
<http://www.rehab.go.jp/ri/indexj.html>

12月5日(金)に研究所オープンハウスを実施致します。
当研究所の活動・研究内容にご興味のある方は是非ご来所
下さい(詳細は下記URLに後日、掲載予定)
<http://www.rehab.go.jp/ri/event/2014openhouse.html>